

第4章 インドクジャクの生息調査

4.1 はじめに

平成 27～31 年度の外来種対策事業（クジャク対策）において、黒島の生息数調査を実施した（沖縄県、2016, 2017, 2018, 2019, 2020）。クジャク対策の成果を評価するための指標として、令和 2 年度事業においても生息調査を実施した。

4.2 方法

(1) 調査期間および方法

調査は令和 3 年 3 月 3 日～5 日に実施した。なお、本調査は車および徒歩による目視調査とし、クジャクの活動が活発になる朝および夕方を中心に行った。また、車や徒歩による目視が困難な地域については、前年度と同様に無人小型航空機（以下、「ドローン」という。）（図 7.1）を使用して上空から、雌雄別の個体数をカウントした。なお、ドローンはクジャクが映像で確認できる高度 20m を平均時速 13.0km で運行させ、カメラ角度は 45 度を保って撮影した。

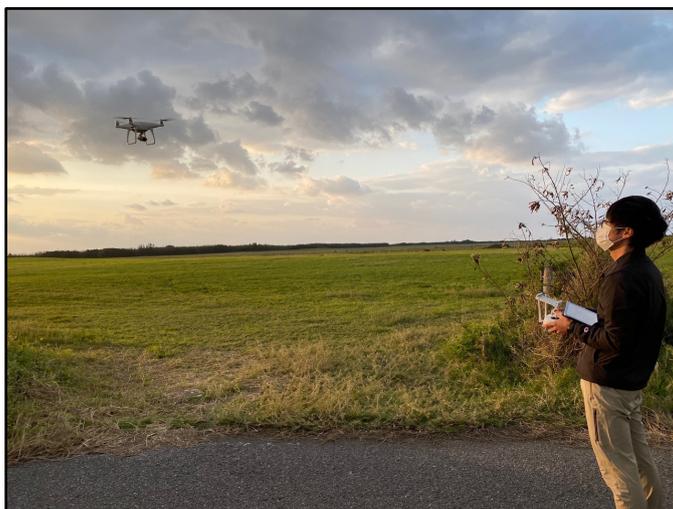


図 7.1 目視調査状況例

(2) 調査ルート

調査ルートは昨年度と同様に目視により 31km、ドローンにより、別途 20km の調査を行った（図 7.2）。

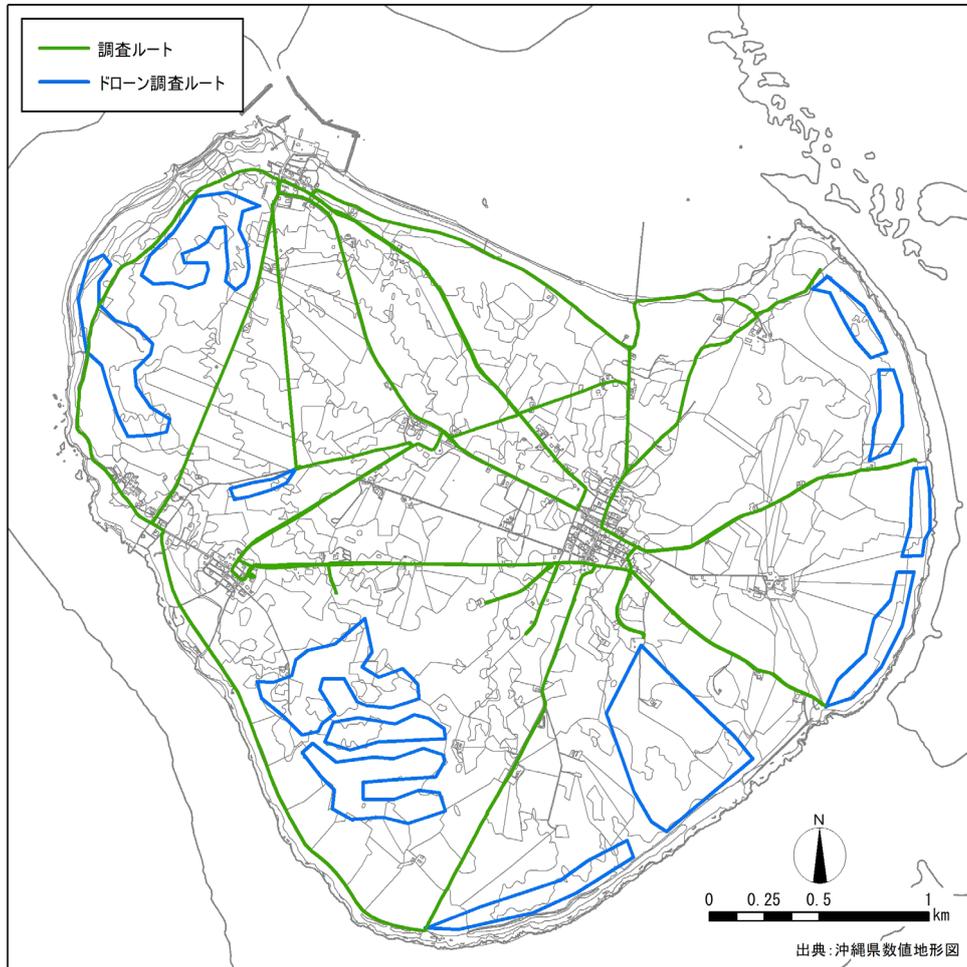


図 7.2 生息調査ルート

4.3 調査結果

(1) 目視による調査結果

黒島においては17地点で合計93羽（オス47羽、メス46羽）の生息を確認した（図7.3）。確認数は昨年度の70羽（21地点）と比較すると増加したが、これは今年度は営巣卵駆除の調査を最適な時期に実施できず、また例年に比べ作業日数が少なくなったことにより、今年生まれた個体が増加したためだと考えられる。また、本調査では31.0kmの調査を行い、平均目視幅は200mとすると、センサス実施面積は6.20km²となる。黒島の面積は10.02km²であることから、センサス実施率は島の約62%であり、生息確認数を0.62で除すると、黒島の推定生息数は約150羽と算出された。なお、同様の解析を過年度のデータをもとに実施すると平成27・28・29・30・31年度の同時期の推定生息数はそれぞれ約369・325・192・122・113羽であると推測できることから、生息数は31年度までは減少傾向にあったが今年度は増加したと考えられる（図7.4）。なお、オスのディスプレイは黒島でねぐら踏査時の2月19日に確認されており（図7.5）、例年通り（沖縄県、2020）に繁殖活動が開始されているものと推測できる。

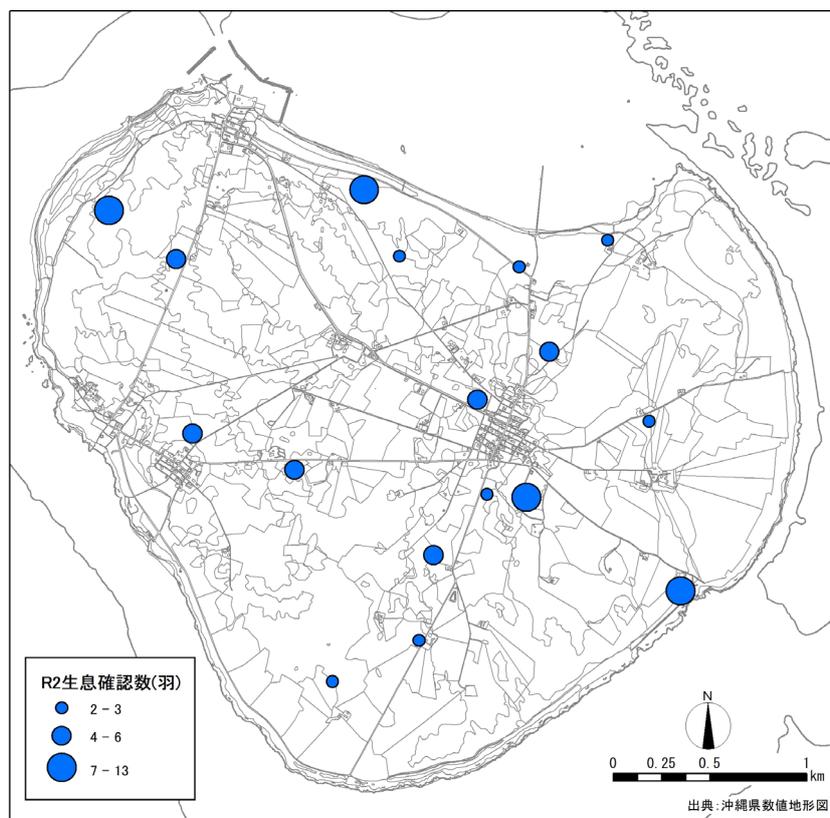


図 7.3 令和2年度黒島における生息確認位置図

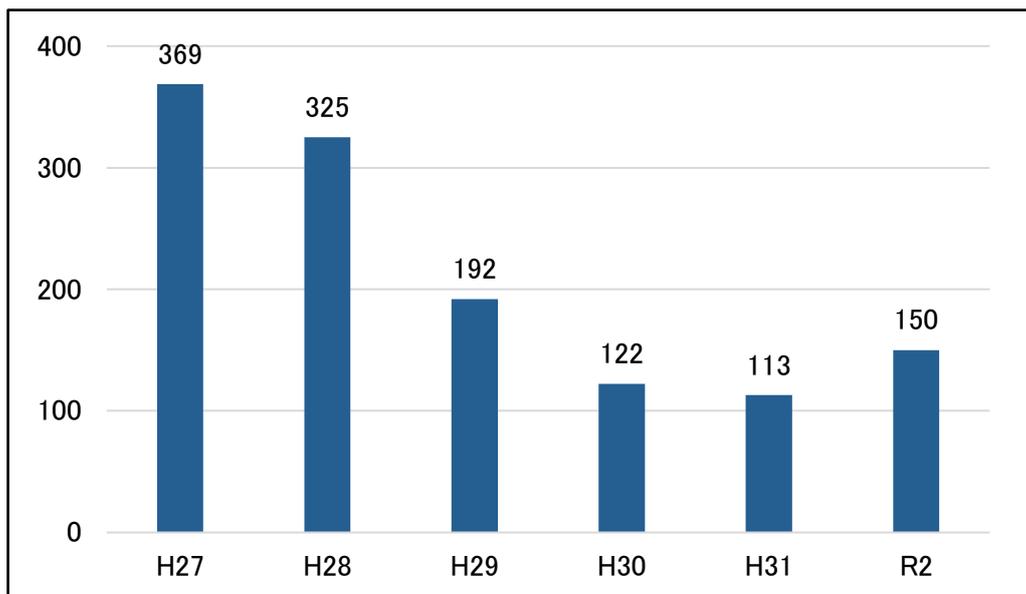


図 7.4 黒島におけるインドクジャク推定生息数の推移



図 7.5 黒島におけるオスのディスプレイ（赤丸内）

(2) 目視およびドローンによる調査結果

ドローンによる調査では、23 地点でオス 28 羽、メス 23 羽の合計 51 羽を確認した(図 7.8)。黒島の生息数については、先述の 4.3 (1) で示したデータと統合すると 144 羽となり、目視調査により 31.0km、ドローン調査で 20.0km の合計 51.0km の調査を行い、平均目視幅をどちらも 200m とすると、センサス実施面積は 10.22km² となる。黒島の面積は 10.02km² であることから、島全域をカバーしているためセンサス実施率は島の 100% であり、生息確認数を 1.0 で除すると、黒島の推定生息数は約 144 羽と算出された。当該数値は目視調査における推定生息数と同等の値を示した。



図 7.8 ドローンにより確認された個体 (赤丸)

4.4 引用文献

- 沖縄県 (2016) 平成 27 年度外来種対策事業 (クジャク対策) 報告書.
- 沖縄県 (2017) 平成 28 年度外来種対策事業 (クジャク対策) 報告書.
- 沖縄県 (2018) 平成 29 年度外来種対策事業 (クジャク対策) 報告書.
- 沖縄県 (2019) 平成 30 年度外来種対策事業 (クジャク対策) 報告書.
- 沖縄県 (2020) 平成 31 年度外来種対策事業 (クジャク対策) 報告書.